

淀川河川公園下流域の概要

下流域の概要

(守口市, 大阪市旭区, 東淀川区)

1. 概要

- ・左岸側は庭窪河畔地区、八雲地区、八雲野草地区、守口地区、外島地区および太子橋地区の6地区、右岸側は豊里地区1地区が供用されている。

2. 特性

<自然・文化>

- ・京阪守口駅付近に一部が残る文禄堤は、旧淀川堤防の一部で豊臣秀吉が文禄5年(1596)に毛利氏に命じて築かせたもので、大阪と京都を陸路で結ぶ京街道として利用され、重要な交通路となっていた。
- ・平田の渡しは、延宝4年(1676)ごろから開かれ、昭和45年の豊里大橋完成まで、約300年近くにわたり利用された。



文禄堤と津出し浜



文禄堤跡の街並み



平田の渡し跡



庭窪ワンド



八雲ワンド



ニゴイ



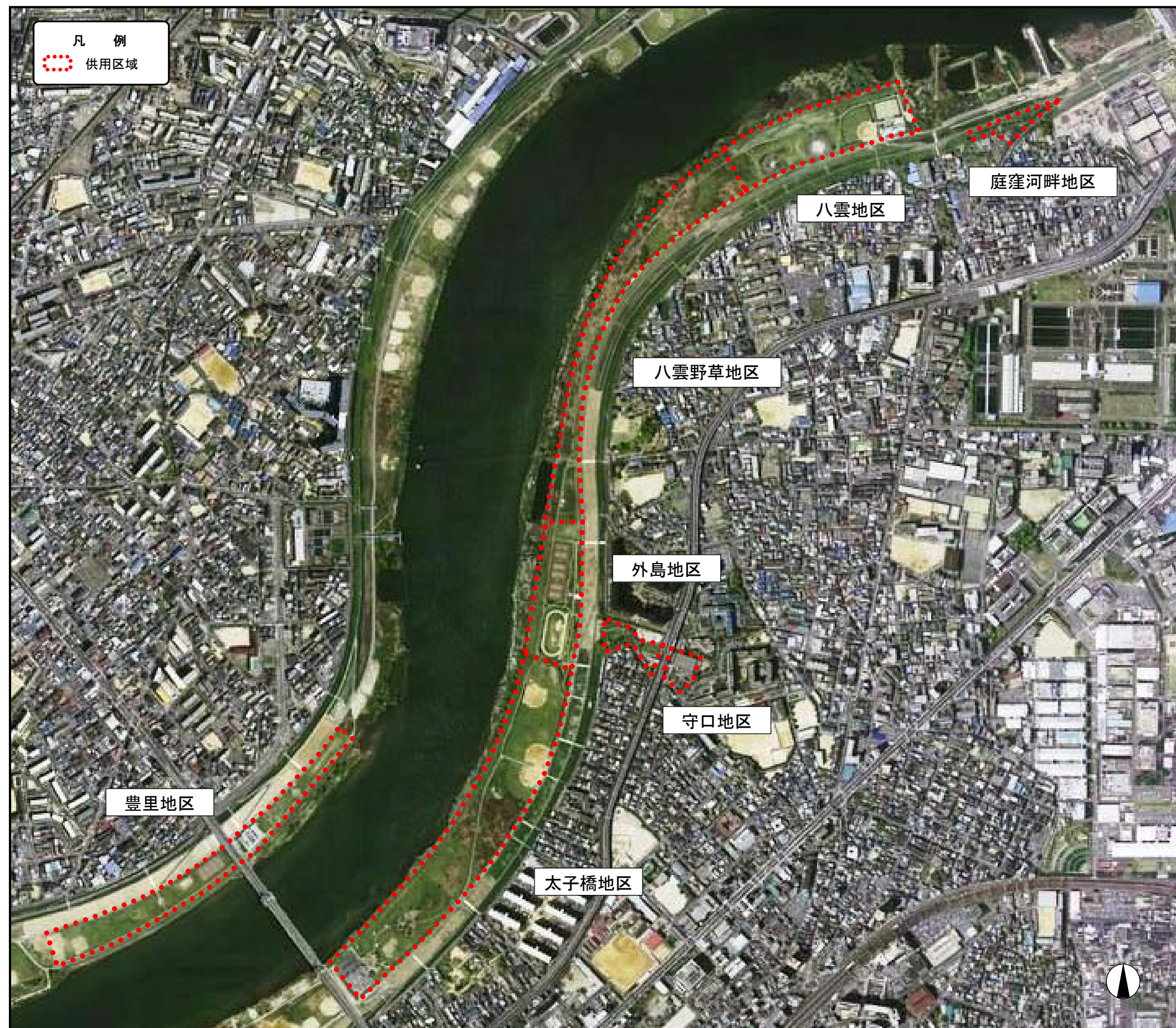
ギンブナ

<生物>

- ・庭窪ワンドや八雲ワンドがある。ワンドは本川とは異なった自然環境を有しており、生物相を多様化している。
- ・ワンドには、天然記念物のイタセンパラ、アユモドキ、ニゴイ、キンブナなどの魚類、希少な水中昆虫であるエサキアメンボやメガネサナエの幼虫(ヤゴ)などが生息している。

<交通>

- ・左岸側は、京阪守口市駅・地下鉄守口駅・大日駅、右岸側は、地下鉄だいどう豊里駅から徒歩圏(約1km前後)にあり、鉄道駅からの利便性は高い。
- ・左岸堤防上を「北大阪周遊自転車道(北大阪サイクルライン)」、右岸堤防上を「なにわ自転車道」が走っている。



下流域（大阪市北区・旭区・都島区域）の概要

1. 概要

- ・城北河畔地区、赤川地区、毛馬地区、長柄河畔地区および長柄地区の5地区が供用されている。

2. 特性

<自然・文化>

- ・明治の淀川の付替工事に伴う廃河川敷につくられ城北公園があり、城北ワンドとともに市民の憩いの場となっている。
- ・長柄河畔地区には、明治の淀川改修工事の記念碑や旧閘門・洗堰などの土木遺産が保存され、付近は散策等が楽しめる公園となっている。
- ・淀川改修百周年記念として、毛馬閘門付近の堤防上に毛馬で生まれた江戸中期の俳人と謝蕪村の歌碑が建てられている。



城北公園の芭蕉園



明治の毛馬閘門



与謝蕪村の歌碑

<生物>

- ・淀川のワンドを代表する城北ワンドがある。
- ・ヨシ原は、水鳥の貴重な生息域で、アオサギやコアジサシ、夏にはオオヨシキリの姿もみられる。
- ・限られたワンドに生える希少植物のヤガミスゲ等の水生植物、両生類等も多数生息している。



城北ワンド



イタセンパラ

<交通>

- ・長柄地区へは、地下鉄天神橋六丁目駅が約1kmの位置にあるが、毛馬・赤川・城北河畔地区へは鉄道駅まで2km以上あり、鉄道駅からのアクセスは良いとはいえない。
- ・大川沿いから毛馬を経由し左岸堤防上を「北大阪周遊自転車道（北大阪サイクルライン）」が走り、赤川鉄橋から右岸沿いに「なにわ自転車道」が走り、上下流沿いに自転車移動が可能である。



下流域（大阪市福島区・北区・淀川区域）の概要

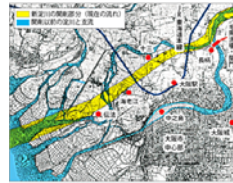
1. 概要

- ・右岸側の西中島地区、十三野草地区、左岸側の大淀野草地区、海老江地区の4地区が供用されている。

2. 特性

<自然・文化>

- ・大阪に繁栄をもたらした淀川は同時に氾濫の川でもあり、明治18年(1855)の大洪水を契機として、中津川に沿って一直線に新河川（新淀川）を開き、大阪港に注がせる大工事が行われた。
- ・工事に伴い、旧海老江村など河口一帯の村の多くが川底に沈み、周辺の公園や寺等に淀川改修記念碑が建てられている。
- ・現在の十三大橋付近に、十三の名称の由来のひとつとされている淀川の「十三番目の渡し」の石碑がある。



淀川改修工事



淀川改修記念碑



十三渡し跡

<生物>

- ・十三干潟は、淀川河川公園西中島地区の水際一帯に広がる自然のまま残された干潟で、淀川の河口域の自然を残す貴重な場所であり、柴島付近でも干潟の再生に取り組んでいる。
- ・海水と淡水が混ざり合う汽水域では、上流の淡水域ではあまり見られない鳥が観察でき、多数の野鳥が都会の真ん中で羽を休める光景を目にすることができる。



西中島地区の干潟
干潟



カワウ



都心にある有数の水鳥の生息地

<交通>

- ・左岸側は、JR東西線海老江駅・阪急中津駅、右岸側は、阪急十三駅・西中島南方駅などが徒歩圏にあり、鉄道駅からの利便性は高い。

